

梶原景時の館址を訪ねる

清水 勝

『吾妻鏡』では、梶原景時は讒言ざんげんを繰り返す人物とされている。後世の歌舞伎や講談では吉良上野介と並ぶ悪役として登場してくる。

景時は石橋山の合戦で、頼朝追討軍に加わっていたが、ししどの窟いわいに潜んでいる頼朝を見逃して危機を救った。いずれ頼朝の世が来るとの思いがあつたのだろう。

その思いが通じ、その後頼朝を助けた功績により重用された。頼朝の陰の部分を担当し、謀反の疑いにより上総かずさ広常ひろつねを殺害した。このように鎌倉殿を第一とする景時は謀反や反逆を監視する役割があり、讒言家とは必ずしも言えない。

屋島の戦いや壇ノ浦の戦いでは、景時と義経は戦略面での対立等があり、その合戦の軍監としての報告で「判官殿はんかんだの（義経）は功を誇り傲慢で部下たちを苦しめております」と述べ、後に『梶原景時の讒言』ほんげんと呼ばれるようになった。義経を悲劇の英雄とする判官はんかみ鼻貞びさだにより、敵役の景時は義経を陥れた悪人とされた。

頼朝の死後、部下から有力御家人の結城朝光ゆうきともみつが「忠臣は二君に仕えず」と言ったとの情報を得、「結城は頼朝様には仕えたが、頼家様には仕えるつもりはない」と頼家に報告した。これには三浦義村等が憤慨し、皆の声を頼家様に伝えようと募ったところ、外様の景時が力を持っていることへの嫉妬もあり、六十六名の賛同を得て梶原弾劾の連判状を提出した。

景時に弁明の機会が与えられたが黙して語らず。所領の相模国一之宮の館に退いた。翌年には上洛すべく一族を率いて出立するも、駿河での戦闘で敗れ自害した。

その館址が相模国一之宮「寒川神社」の近くにあると知り訪ねた。敵役であつたためか館は保存されておらず、その跡地に小さな一之宮天満宮があり、碑と説明版があつた。地元には「梶原公顕彰会」あり、その人物像や歴史的役割を評価する活動をしている。

近くの住宅地に「梶原伝七士の墓」がある。説明によれば梶原一族のうち、生き残った七名が鎌倉にお家再興を願い出たが、叶わず自害したという。